J-40

全国の競艇場の建設経緯及び水面の選定理由に関する研究

Research on the Construction History of Boat Racecourses in Japan and the Reasons for the Selection of Water Surfaces

○高柳祐里[1]，　菅原遼[2]
*Yuri Takayanagi[1], Ryo Sugahara[2]

After World War II, boat racing attracted attention in Japan as one of the public sports for the purpose of reconstruction of various industries and increase of local government finances. Currently, 24 boat racecourses are operated under the supervision of the Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism. However, the location characteristics, size, construction history, and reasons for selecting the water surfaces of boat racecourses in Japan have not been clarified in previous studies. The purpose of this paper is to understand the general situation of boat racecourses in Japan, the construction process and the reasons for the selection of water surfaces. As a result, it was found that the social conditions at the time of construction had a great influence on the background of boat races in Japan, and that the reasons for the selection of water surfaces were related to the characteristics of each region.

１．はじめに

我が国では，第二次世界大戦後，各産業の復興や地方財政の増収を目的とし，公営競技の 1 つとして競艇が注目された．1951 年にモーターボート競走法が施行された後，1952 年に全国初のレースが長崎県の大村競艇場で開催され，現在では 24 ヶ所の競艇場が国土交通省監督のもと開催・運営されている．こうした競走水面は，都市近郊の水面が使用されているが，全国の競艇場の立地特性や規模，建設経緯及び水面の選定理由に関しては明らかにされていない．

そこで本稿では，日本全国の競艇場の概況と，建設経緯や競走水面の選定理由を捉えることを目的とする．

２．調査概要

Table1 に調査概要を示す．本調査では，競艇沿革史[1]や公式 HP に基づき，現在競艇が開催されている 24 ヶ所の競艇場を対象として全国の競艇場の概況や分布状況を把握した．次いで，文献調査やヒアリング調査に基づき，競艇場ごとの建設経緯や水面の選定理由を把握した．

３．全国の競艇場の概況

３－１．競艇場の分布と建設時期

Fig.1 に閉鎖された 2 ヶ所を含む全 26 ヶ所の全国の競艇場の立地分布と建設時期を示す．調査の結果，全国の競艇場の立地分布は，水面での競技という特性上，比較的温暖な西日本に多く分布していることが確認できた．競艇場の建設時期は，1952 年から 1956 年の 5 年間のうちにすべての競艇場が建設されている．特に，1952 年から 1953 年の 2 年間のうちに全 26 ヶ所の内，17 ヶ所と半数以上が建設されている．

Table 1. Survey outline

対象地		全国24箇所の競艇場
調査①	調査方法	文献調査（競艇沿革史，公式HP）
	調査項目	分布状況，建設時期，競走水面，施行者，水質，干満差
調査②	調査方法	文献調査（競艇沿革史，公式HP），ヒアリング調査（行政）
	調査項目	規模，法律，建設経緯，水面の選定理由

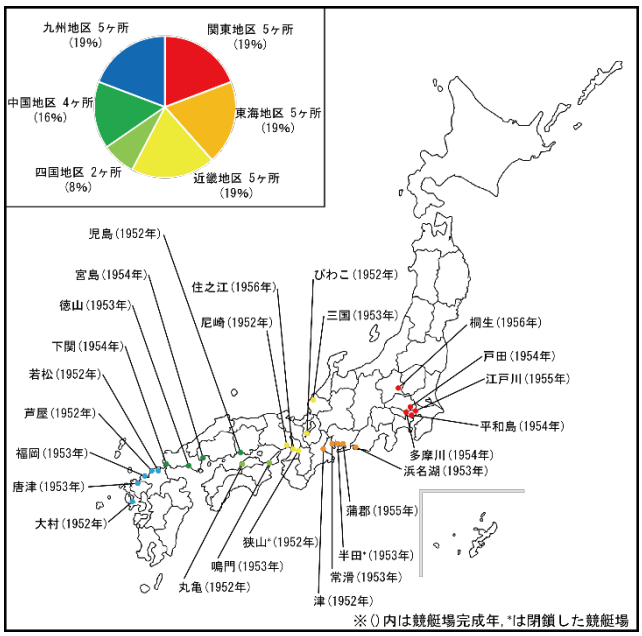

Figure 1.Distribution of boat racecourses in Japan and construction date

また，閉鎖された 2 ヶ所の競艇場について，狭山競艇場は，立地条件に伴う経営難に加え，1955 年に発生した競走水面である狭山池の干ばつをきっかけに，翌年 1956 年に閉鎖され，その後現在の住之江競艇場へ移転された．半田競艇場は，1959 年に発生した伊勢湾台風の影響で競艇場施設が被害を受け，レースの開催が不可能となり，同年に閉鎖された．

１：日大理工・学部・海建　２：日大理工・教員・海建

Table 1 Overview of Boat Racecourses in Japan

	競艇場名	施行者	競走水面	所有者(水面)	面積(水面)	水質			干満差		競走水面の選定理由			
						海水	淡水	汽水	有	無	アクセス性	景観性	水面条件	防災性
関東	桐生競艇場	みどり市	阿左美沼東貯水池	—	67,718㎡		●			●	●	●		
	戸田競艇場	戸田ボートレース企業団，埼玉県都市ボートレース企業団	人工水面	埼玉県	61,162㎡		●			●				●
	江戸川競艇場	東京都六市競艇事業組合，東京都三市収益事業組合	中川	東京都	64,826㎡			●	●					●
	平和島競艇場	府中市	東京湾	東京都	66,282㎡	●			●			●		
	多摩川競艇場	青梅市，東京都四市競艇事業組合	人工水面	多摩川開発株式会社	71,097㎡		●			●		●		
東海	浜名湖競艇場	浜名湖競艇企業団	人工水面	静岡県	91,439㎡			●	●		●			
	蒲郡競艇場	蒲郡市	人工水面	蒲郡市	77,978㎡			●		●		●		
	常滑競艇場	常滑市，半田市	伊勢湾	国	84,057㎡	●				●		●		
	津競艇場	津市	人工水面	—	87,143㎡			●		●	●			
近畿	三国競艇場	越前三国競艇企業団	人工水面	個人	80,430㎡		●			●			●	
	びわこ競艇場	滋賀県	琵琶湖	国	68,610㎡		●			●	●			
	住之江競艇場	大阪府都市ボートレース企業団，箕面市	人工水面	住之江工業株式会社	60,512㎡		●			●	●			
	尼崎競艇場	尼崎市，伊丹市	人工水面	尼崎市	61,378㎡		●			●	●		●	
四国	鳴門競艇場	鳴門市，松茂町ほか二町競艇事業組合	小鳴門海峡	徳島県	54,484㎡	●			●				●	
	丸亀競艇場	丸亀市，香川県中部ボートレース事業組合	瀬戸内海	国	59,910㎡	●			●		●			
中国	児島競艇場	倉敷市，備南競艇事業組合	瀬戸内海	岡山県	65,578㎡	●			●		●			
	宮島競艇場	宮島ボートレース企業団	大野瀬戸（瀬戸内海）	—	66,291㎡	●			●		●	●		
	徳山競艇場	周南市	笠戸湾（瀬戸内海）	山口県	92,169㎡	●			●				●	
	下関競艇場	下関市	周防灘（瀬戸内海）	国	72,695㎡	●			●				●	
九州	若松競艇場	北九州市，中間市行橋市競艇組合	洞海湾	国	62,697㎡	●			●		●			
	芦屋競艇場	芦屋町	人工水面	—	69,987㎡		●			●		●		
	福岡競艇場	福岡市，福岡都市圏広域行政事業組合	那珂川	福岡県，福岡市	68,888㎡			●	●		●			
	唐津競艇場	唐津市	人工水面	唐津市，個人	77,868㎡		●			●	●		●	
	大村競艇場	大村市	大村湾	大村市	68,843㎡	●			●			●	●	
					計	10	9	5	12	12	12	8	7	2

※—は回答が得られなかった項目を示す

３－２．全国の競艇場の特徴

Table2 に全国の競艇場の概況を示す．施行者と呼ばれる地方自治体がレースを主催しており，10 ヶ所の競艇場が 2 施行者制を取り入れている．競走水面については，既存の水面にコースを設置したところが 14 ヶ所（58%），新たに人工水面を造成し，コースを設置したところが 10 ヶ所（42%）確認できた．競走水面の水質については，海水が 10 ヶ所（42%）と最も多く，次いで淡水が 9 ヶ所（37%），汽水が 5 ヶ所（21%）確認できた．また，干満差がある競走水面が 12 ヶ所（50%），干満差がない競走水面が 12 ヶ所（50%）確認できた．

３－３．全国の競艇場水面の所有者及び規模

競走水面の所有者について，施行者が水面を所有している競艇場や，国や個人などが所有し，水面の管理者に対して占用許可を行っている競艇場もみられた．また，競走水面の面積については，各競艇場の水面図から GoogleEarth を用いて算出した．その結果，平均は 70,918 ㎡であり，徳山競艇場が 92,169 ㎡と最も大きく，鳴門競艇場が 54,484 ㎡と最も小さいことが確認できた．

４．競艇場の建設経緯及び水面の選定理由

４－１．競艇場の建設経緯

全国の競艇場の多くは，第二次世界大戦後に建設された．戦災からの復旧で，住宅や学校を建設したり道路を復旧したりする必要があったが、収税が難しくなり，各自治体で厳しい財政状況が続いていた．戦災のほかに，桐生競艇場や唐津競艇場では台風による被害や，浜名湖競艇場では近海漁業が不振だったことから財政困難となり，競艇場を建設するに至った．

財政の再建を目指す以外の建設経緯として，戸田競艇場では荒川氾濫時の湛水対策としての役割を担うために新たに水面を造成し．競艇を開催した．また，江戸川競艇場では，水害による区政の経営難が課題であり，河川を利用した競艇を開催することによる発展を意図していた．

４－２．競走水面の選定理由

競走水面の選定理由について，アクセス性，景観性，水面条件，防災性の 4 つに分類した．アクセス性については，交通の便の良さや市街地までの距離が考慮され，選定されていた．景観性については，その地域の名所や対岸の景色，地域的環境が考慮され，選定されていた．水面条件については，レースの開催にあたり，選手の安全が確保でき，潮流や波浪状況，天候に左右されないという理由から，選定されていた．しかし，鳴門競艇場に関しては，競走水面が海峡であり潮流が速い地点ではあったが，競艇という公営競技の特性上，躍動感のあるレースが好まれるという演出意図に基づき，選定されていた．防災性については，戸田競艇場では豪雨時など荒川の水位が上昇した際に，一時的に貯水し，のちに放流できる場所として，荒川沿いが選定されていた．

以上より，競走水面の選定理由の大半は，アクセス性が重視されており，その他では景観性や水面条件が考慮されていることが確認できた．

５．まとめ

本稿では，日本全国の競艇場 24 ヶ所の概況や建設経緯，競走水面の選定理由を捉えた．その結果，我が国において競艇が開催されるようになった背景には，建設当時の社会情勢が大きく関係しており，各競走水面の選定理由は，地域の特性が関係していた．

参考文献

[1] 全国モーターボート競走施行者協議会：「競艇沿革史」，1970 年